

沖縄南部地域の命と暮らしを守る 道づくり促進に関する要望書

令和7年5月

(沖縄県)

南 部 市 町 村 会
一般財団法人南部振興会
南部東道路整備促進期成会

令和7年5月14日

様

南 部 市 町 村 会
会 長 宮 里 哲

一般財団法人南部振興会
理事長 宮 里 哲

南部東道路整備促進期成会
会 長 古 謝 景 春

沖縄南部地域の命と暮らしを守る道づくり促進に関する要望

平素、沖縄南部地域の道路網の整備促進に鋭意ご努力いただいておりますことに
対し、深く感謝と敬意を表します。

さて、沖縄南部地域の命と暮らしを守る道づくりと観光振興など経済活動の活性化
を促進するため、その基盤である道路網の早期整備が望まれており、次の事項の実現
方について、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

一、那覇空港自動車道（小禄道路）の整備推進について

那覇空港自動車道は、那覇空港と沖縄自動車道を結び、南部地域における主要幹線道路として、当該地域の交通渋滞の緩和をはじめ、住民生活の利便性向上や産業振興等の発展に寄与するとともに、沖縄本島における陸上交通の骨格軸を形成し、沖縄本島内の各拠点間の定時・速達性を確保するなど観光振興等においても大いに貢献するものと期待されている。

当該自動車道の整備は、これまで南風原道路や豊見城東道路の全線4車線が開通し、住民生活の利便性向上や産業振興等の発展に大きく寄与しているところであるが、沖縄本島の高速交通体系の形成や南部地域の更なる振興発展のためには、那覇空港へ接続する小禄道路の早期整備が望まれており、引き続き小禄道路の整備を推進していただきたい。

一、沖縄西海岸道路（那覇北道路）等の整備推進について

沖縄西海岸道路は、那覇空港や那覇港等の物流拠点と沖縄本島西海岸地域の各拠点間を連絡し、物流機能の効率化や産業振興等の発展に寄与するとともに、国道58号をはじめとする西海岸地域の交通渋滞の緩和のほか、那覇空港等へのアクセス性の向上により観光振興等を支援する道路として大いに期待されている。

当該道路の整備は、これまで豊見城・糸満道路をはじめ、那覇西道路や浦添北道路などが開通し、当該地域の交通渋滞の緩和や産業振興等の発展に大きく寄与しているところであるが、那覇空港や那覇港等を基軸とした国際物流拠点の形成や南部地域の更なる振興発展のためには、交通円滑を図る那覇北道路の早期整備が望まれており、引き続き那覇北道路の整備推進を図るとともに、那覇新都心地区から那覇北道路へアクセスする上之屋道路の早期供用に向けて整備を促進していただきたい。

一、高規格道路・南部東道路の整備促進について

南部東道路は、沖縄本島南部地域の東部に位置する世界文化遺産の「斎場御嶽」や神々の島「久高島」など多くの観光資源を有する南城市から那覇空港自動車道に連結する高規格道路として県都那覇市や那覇空港、更には中北部地域へのアクセス性の向上が図られるとともに、時間距離の短縮や定時・速達性が確保され、物流効率化や観光振興等を支援する道路として大いに期待されている。

当該道路の整備は、令和３年３月に一部区間が供用開始し、那覇空港自動車道や周辺の国道・県道を結ぶ広域道路ネットワークの形成に大きく寄与しているところであるが、事業整備の遅れなどから、全線開通に向けた更なる予算確保と組織体制の強化のほか、那覇空港自動車道への直接乗り入れや佐敷つきしろ地区以東への延伸実現など早期整備が望まれており、引き続き南部東道路の整備を促進していただきたい。

一、国道３２９号与那原バイパス・南風原バイパス・西原バイパスの整備推進について

国道３２９号は、沖縄本島南部地域の東部と県都那覇市を結ぶ主要幹線道路であるが、近年における当該地域の発展や人口の増加等に伴い慢性的な交通渋滞が発生しているほか、令和４年３月には与那原バイパスの全区間暫定供用が開始されているものの、当該バイパス沿道には大型ＭＩＣＥ施設の建設が決定されており、県都那覇市や周辺地域から大型ＭＩＣＥ施設への更なるアクセス性の向上を図る必要がある。

当該道路の整備は、南部地域の東西を結ぶ大動脈として、東海岸地域における交通渋滞の緩和や地域経済の活性化を図り、沖縄県の均衡ある発展に寄与する主要幹線道路として早期整備が望まれており、南部地域の主要幹線道路網を形成するとともに、沖縄の玄関口である那覇空港や県都那覇市へのアクセスルートとなる与那原バイパス、南風原バイパスの完成整備を推進していただきたい。

また、西原バイパスについても、与那原バイパス、南風原バイパスと同様に那覇空港や県都那覇市へのアクセス性の向上と共に南部地域と東海岸の中北部地域間の交通円滑を図るため、早期整備を推進していただきたい。

一、国道３３１号（知念字具志堅～山里）の整備推進について

南城市内の国道３３１号は、世界文化遺産の「斎場御嶽」や「おきなわワールド」など南部地域一帯を観光するレンタカーや観光バスの利用者が年々増加している状況にある。

しかしながら、当該区間の一部（知念字具志堅～山里）においては、急カーブが連続する区間であるため、車両同士の接触や転倒事故、更には若者が運転するバイクがカーブを曲がりきれずに崖下へ転落する人身事故も発生するなど、早期対策が望まれており、道路利用者の安全確保を図るため、当該区間の線形改良やバイパス等の早期整備を推進していただきたい。

一、知念半島地域の国道３３１号バイパス化について

知念半島は沖縄県南部東岸に位置し、中城湾に突出した半島で世界文化遺産の「斎場御嶽」をはじめとする深い歴史を刻んだ「グスク」などの貴重な歴史・文化史跡が数多く存在している。また、海岸線には、あざまサンサンビーチ、知念岬公園など美しい海岸景観を持つ県内有数の観光地が点在している。

一方、当該地域は那覇市から半径１５キロメートル圏内という好位置にありながら、国道３３１号以外に幹線道路がなく、半島を大回りする不便な遠隔地とされ、移動の時間的ロスや観光振興や地場産業の発展に大きく影響を及ぼし、就労人口の流出が止まらず、令和４年には当該地域（旧知念村地域）が過疎に指定されるなど、地域振興の大きな障害となっている。

また、地形的な要因から人口の約３割（約１万４千人）の市民が知念半島を通る国道３３１号沿線の標高１０ｍ以下の海岸低地で生活しており、高台や避難施設へのアクセス道路がない地域が多く、昨今の激甚化・頻発化する気象災害や津波等の大規模災害時に対応する避難道路建設が求められている。

当該地域は、国道３３１号を含めた広域道路ネットワークが形成されていない空白地域であることから、激甚化する災害対応（半島防災）や移動時間による東西間での生活環境の格差が顕著となっていることから、県土の均衡ある発展を図るため、知念半島地域の国道バイパス（直轄国道）を事業化し、早期実現に向けて取り組んでいきたい。

一、国道５０７号（八重瀬道路及び仲井真津嘉山線）の整備促進について

国道５０７号八重瀬道路は、那覇東バイパスを起点とし、八重瀬町の島尻教育事務所付近までの区間においては都市計画道路として整備事業が推進されている。

また、津嘉山バイパスについては、平成２６年４月に全線供用され、八重瀬町東風平から具志頭までの区間においては、早期完成供用を目指しているとのことであるが、八重瀬町東風平の国道５０７号と県道７７号線との交差点は、交通量が多く、朝夕問わず交通渋滞が発生しているため、当該地域の交通渋滞の緩和のほか、歩行者の安全確保や無電柱化及び自転車道路の整備を含めた早期整備が望まれている。

一方、国道５０７号仲井真津嘉山線は、平成５年に都市計画区域に決定されているが、一部区間（南風原町の津嘉山自動車学校前から那覇糸満線までの区間）においては未だ事業決定がなされておらず、また、令和３年度道路交通センサスにおいても１８，３２７台／日と非常に交通量が多く、慢性的な交通渋滞を解消するため、早期事業化が望まれており、南部地域の主要幹線道路網を形成するとともに、当該地域を唯一縦断する国道５０７号（八重瀬道路及び仲井真津嘉山線）の早期整備を促進していただきたい。

一、防災・減災、国土強靱化について

防災・減災、国土強靱化実施中期計画について、能登半島地震や八潮市の事故等を踏まえた更なる対策の拡充や新たな施策の位置づけ、物価高騰や賃金水準等の上昇も踏まえ、現行の対策を大きく上回る必要な予算・財源を盛り込んだ国土強靱化実施中期計画を早期策定し、計画を確実に進めるために必要な予算・財源を通常道路予算に加え別枠で確保していただきたい。

また、沖縄経済を支えるため、成長力及び国際競争力の強化、更には生産性向上の観点から、公共事業に関する予算について例年以上の規模で確保していただきたい。

一、無電柱化・道路緑化等の推進について

一昨年の台風6号により、長時間にわたる停電が発生したことを踏まえ、台風の被災頻度が高く、他地域からの支援を受けることが困難な離島地域をはじめ県内全域における安定的な電力供給網等の確保、災害時の緊急輸送道路等の安全性の確保及びリゾート地に相応しい良好な景観形成等を図るため、占用制限も含めた無電柱化の推進及び観光振興を目的に道路緑化等を推進していただきたい。

一、沖縄総合事務局の体制強化について

激甚化・頻発化する大規模自然災害の脅威・危機に即応するため、並びに南部地域の課題解決に資する本要望に記載する各事業の迅速な対応・推進のために、沖縄総合事務局開発建設部の体制の充実・強化や災害対応に必要な資機材の更なる確保をしていただきたい。

